

恵山の火山活動解説資料（平成24年3月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～8）

Y火口の噴気の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

16日に北海道開発局、23日に第一管区海上保安本部の協力により上空からの観測を実施しました。目視及び赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②③、図9～10）

30日23時22分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生しました。微動発生直後から31日未明にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。微動発生時の噴気状況は雲のため不明でしたが、空振計及び地殻変動データに特段の変化はありませんでした。

火山性微動発生後の状況確認のため、4月2日（期間外）に現地調査を実施しました。X、Y火口の噴気や火口の状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地殻変動の状況（図1-④）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

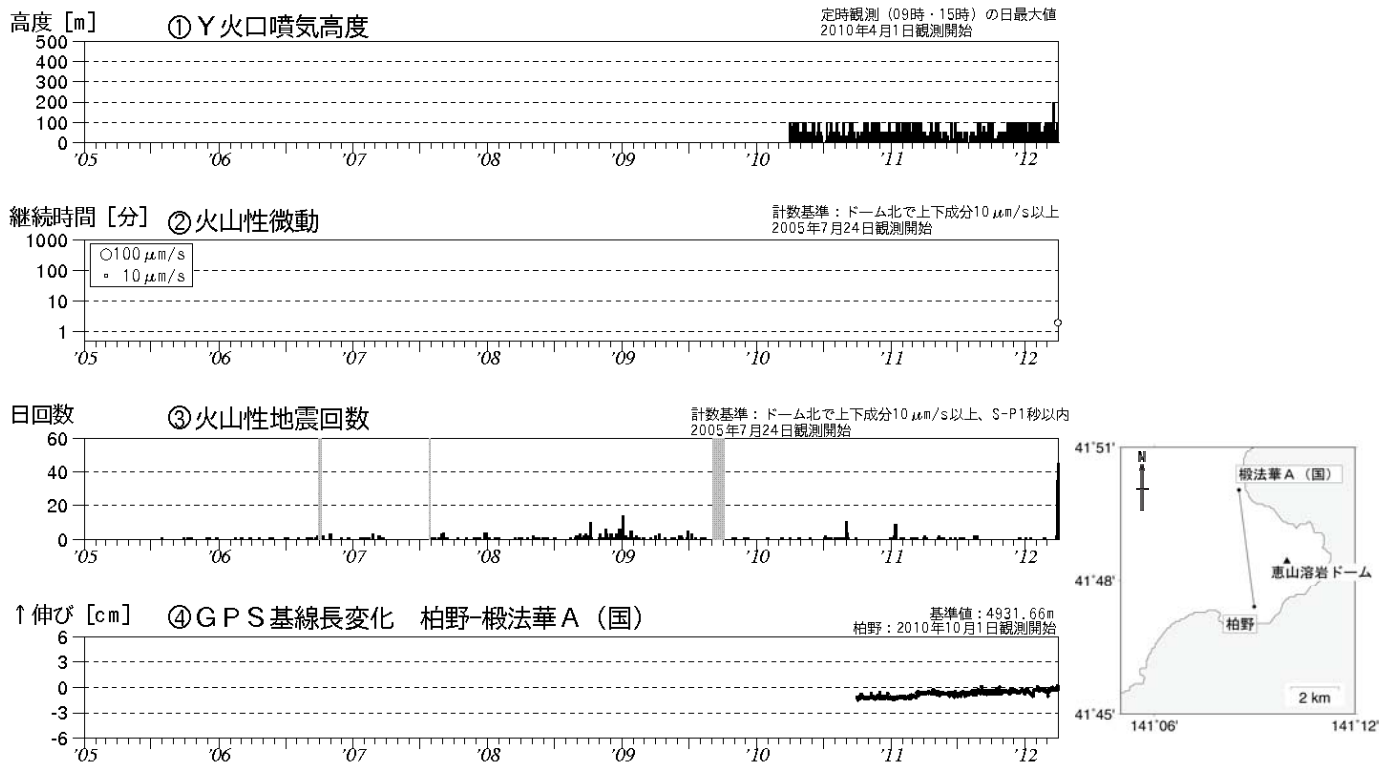
1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年4月分）は平成24年5月10日に発表する予定です。



- ・ 灰色の期間は機器障害のため欠測しています
- ・ ③の火山性地震回数は計数基準を 3 $\mu\text{m/s}$ から10 $\mu\text{m/s}$ に変更しました
- ・ ④のGPS基線は右図に対応しています
- ・ (国)：国土地理院



図 2 恵山 山頂部の状況（3月4日、高倍遠望カメラによる）
白丸内は Y 火口からの噴気

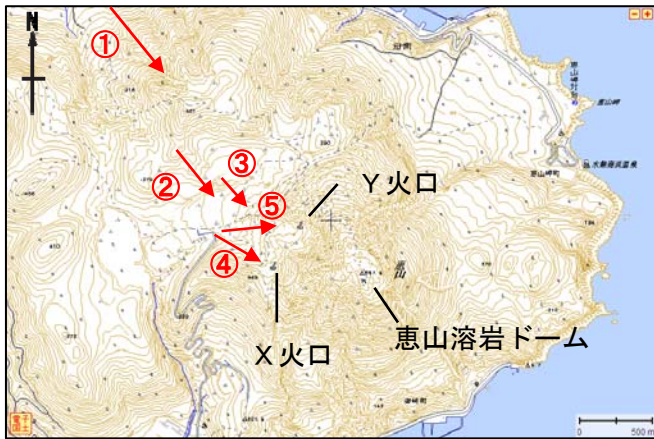


図 3 恵山 恵山溶岩ドーム周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図 4 恵山 恵山溶岩ドーム周辺の状況
北西側上空（図 3 の①矢印方向）から撮影

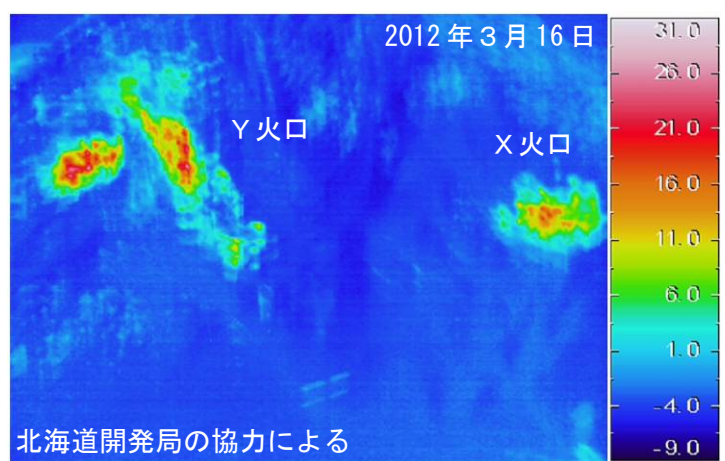
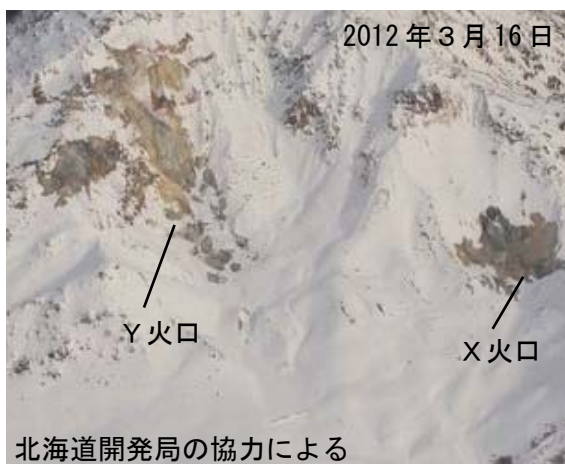
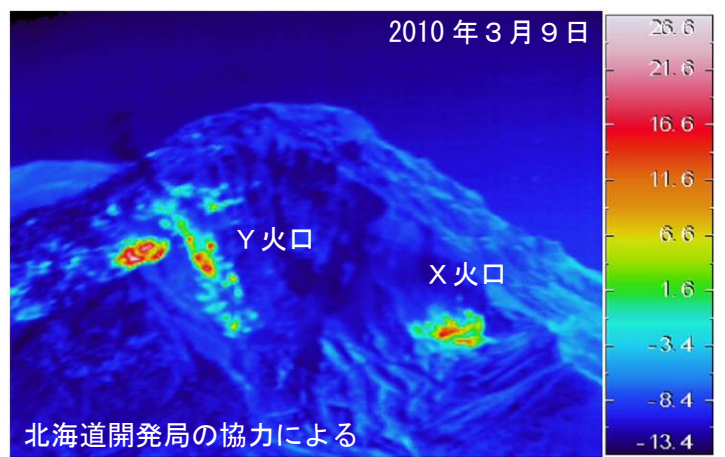


図 5 恵山 赤外熱映像装置¹⁾による X 火口及び Y 火口周辺の地表面温度分布
北西側上空（図 3 の②矢印方向）から撮影



図 6 恵山 恵山溶岩ドーム西側の状況
(図 3 の③矢印から撮影)

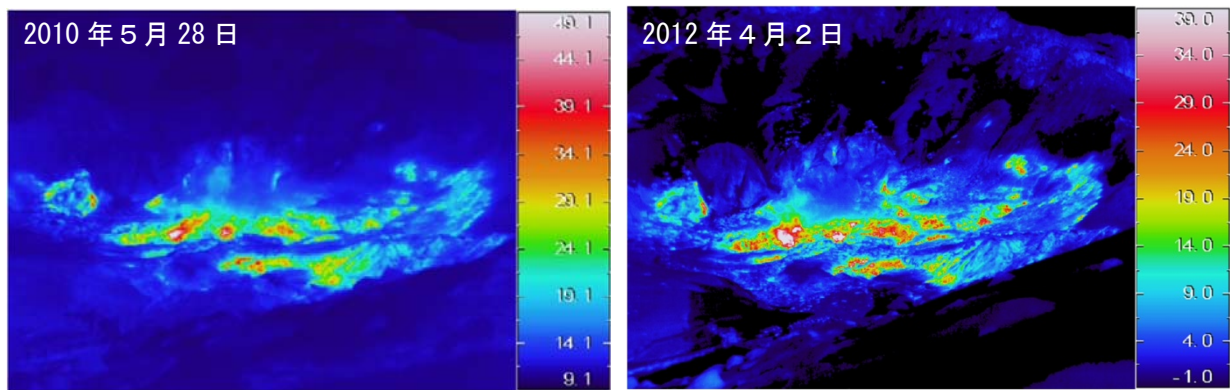


図 7 恵山 赤外熱映像装置¹⁾による X 火口周辺の地表面温度分布
(図 3 の④矢印から撮影)

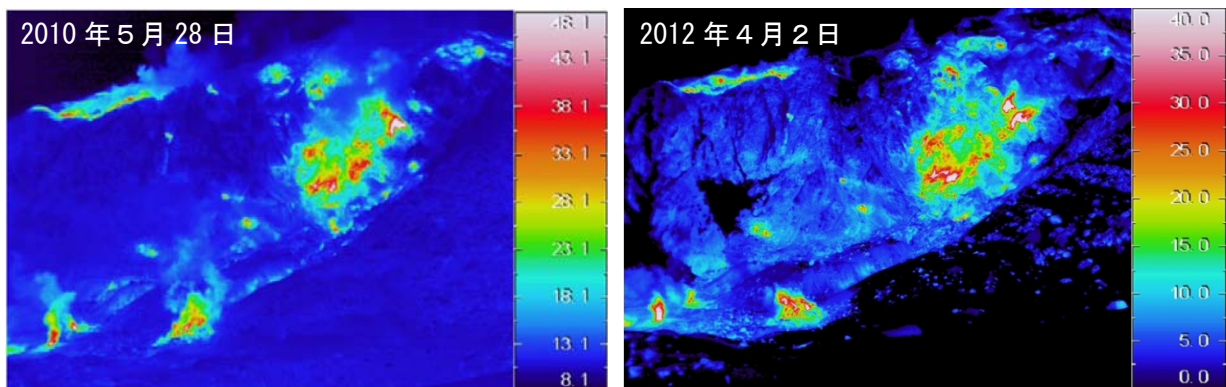


図 8 恵山 赤外熱映像装置¹⁾による Y 火口周辺の地表面温度分布
(図 3 の⑤矢印から撮影)

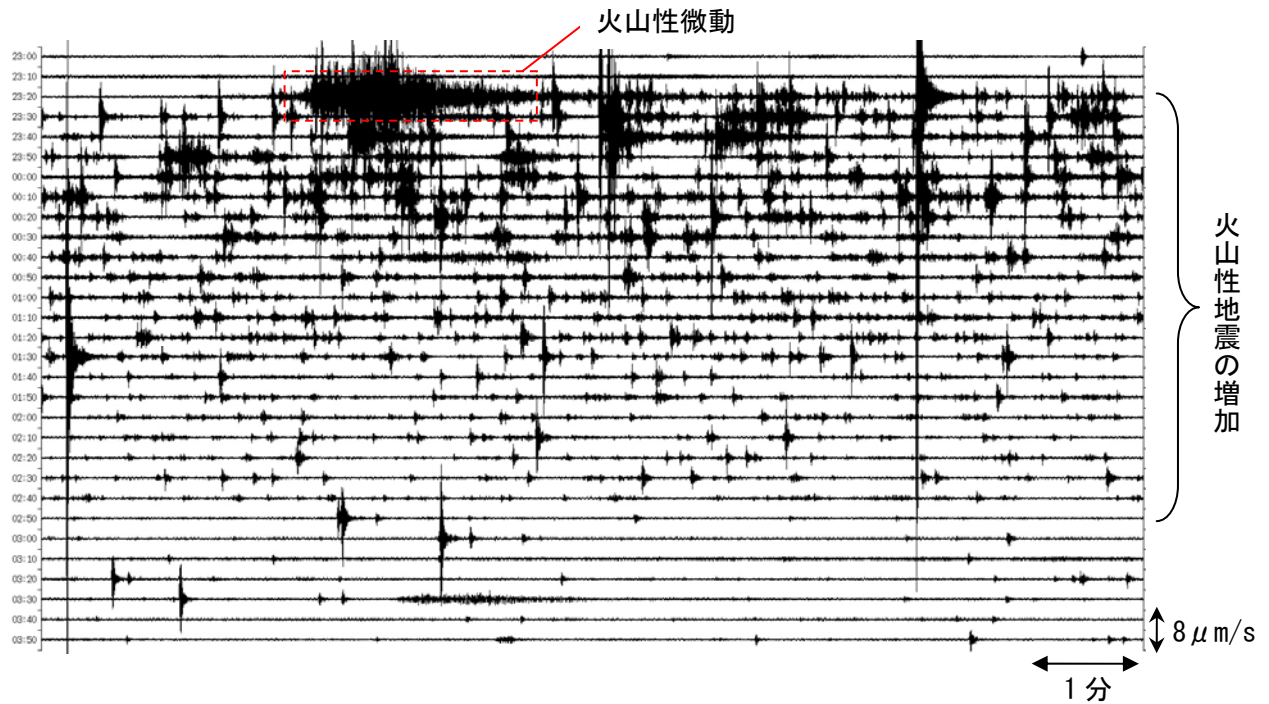


図9 恵山 ドーム北の上下成分の地震波形（3月30日23時～31日4時）

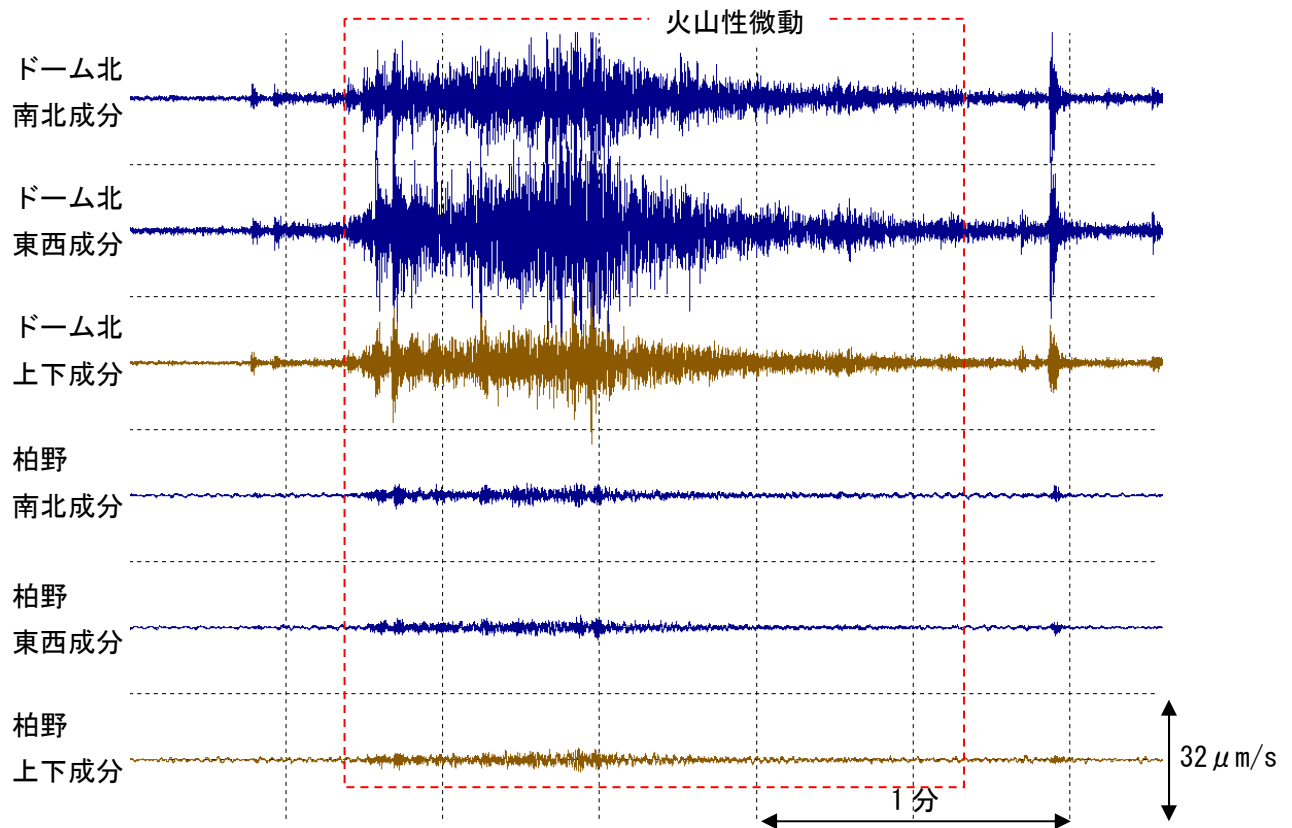


図10 恵山 30日23時22分頃に発生した火山性微動の波形

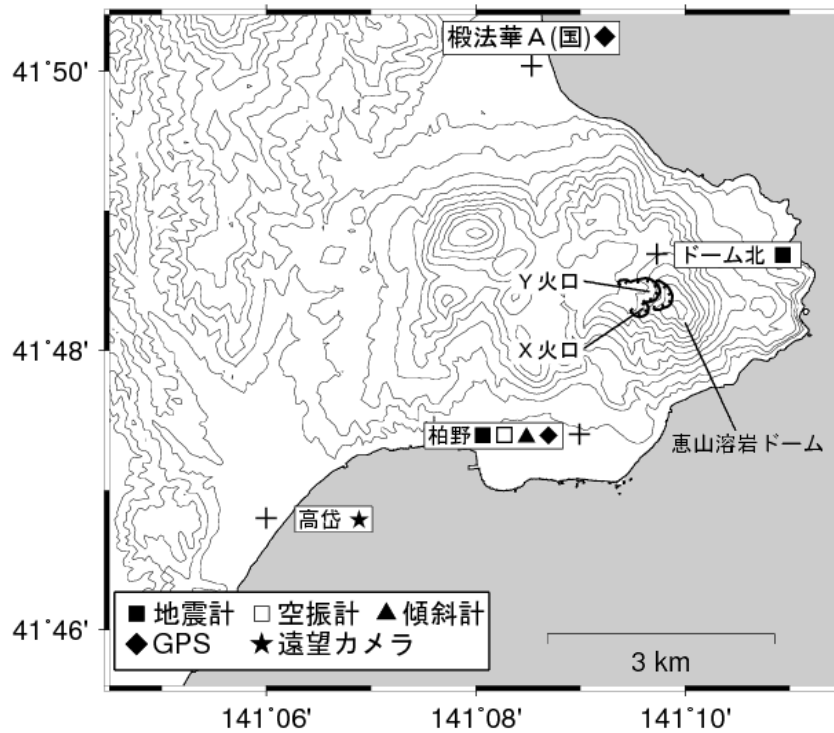


図11 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院